

事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月31日
2次評価日（課長等）	26年3月31日

1 事業名	旧渡辺家住宅管理事業			コード	112202	
2 担当部課	部等	教育部	課等	生涯学習課	作成者	小坂英文
3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち			
		政 策	文化・スポーツの振興	施 策	文化財の保護・活用	
		予算科目	旧渡辺家住宅管理事業費	業務委託	一部委託	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	旧渡辺家住宅条例 長野県文化財保護条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
施設の概要 （簡潔に）	江戸時代中期に建てられた下級武士の住宅		
目的	対象者	旧渡辺家住宅を観光するお客様	
	意 図	江戸時代の下級武士の生活を学んでいただく	

5 施設の管理運営状況			
指定管理者	なし	25年度指定管理料	0 円
施設における 通常業務	入館料 一般 おとな 300円 こども 150円（小中学生） 団体 おとな 200円 こども 100円（小中学生） 諏訪6市町村の小中学生、及び市内在住の高校生は無料 共通入館券1,000円他		
事業の実施内容	<p>（25年度に施設で行った運営事業・自主事業など）</p> 日本住宅で和の文化を演出するため市民の協力を得ながら五月人形の展示と呈茶を行った。 4月20日あるき太郎花回廊、11月3日文化の日に無料公開を行った。 敷地内にある柿、梅、カラタチ等の剪定を行った。		
前年度の課題 への対応	旧渡辺家住宅の床下に住みついた小動物の巣を撤去し侵入口を塞ぎ小動物を追い払った。		

6 施設の利用状況	*②・③はどちらかの欄に記入			
区 分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	28.2%	27.2%	36.1%	
年間開設日数（日）	140	141	142	143
1日の開設時間（時間）	8	8	8	6
年間利用可能時間（時間）	1,050	1,058	1,065	858
年間利用実績（時間）	296	288	384	
② 年間利用者数（人）	1,063	654	358	423
有料利用者数	105	152	168	233
無料利用者数	105	19	8	8
減免措置者数	853	483	182	182
③ 年間利用件数（件）	0	0	0	4
有料利用件数	0	0	0	4
無料利用件数	0	0	0	0
減免措置件数	0	0	0	0
④ 1日あたり利用者数、件数	7.6	4.6	2.5	3.0
⑤ 施設利用状況の説明	あるき太郎花回廊による入館者が主なもの			

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	1,435,282	1,537,318	1,288,229	1,449,000
経常経費	1,435,282	1,453,318	1,288,229	1,449,000
臨時的経費	0	84,000	0	0
* 臨時的経費の説明	なし			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	2,400,000	2,400,000	2,000,000	2,000,000
正規職員の人数(人)	0.30	0.30	0.25	0.25
③ 合計コスト(①+②)	3,835,282	3,937,318	3,288,229	3,449,000
前年度比		102.7%	83.5%	104.9%
財源	3,802,360	3,900,518	3,249,479	3,369,000
内訳				
一般財源	3,802,360	3,900,518	3,249,479	3,369,000
特定財源	32,922	36,800	38,750	80,000
* 特定財源の説明	旧渡辺家住宅入館料及び使用料			
④ 施設使用料年間収入額	25,000	36,800	38,750	80,000
⑤ 年間減免措置額	255,900	144,900	54,600	54,600
⑥ 受益者負担割合	19.6%	11.8%	7.2%	9.3%
⑦ 活動一単位あたりコスト	3,608	5,892	9,185	
前年度比		163.3%	155.9%	
⑧ コストに関する補足説明	管理人賃金が主なもの			

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。	1日あたり利用者数、件数 前年度比 54.4%	0
⑤ 施設使用料収入が増加した。	施設使用料年間収入額 前年度比 105.3%	1

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)	
	施設の開館時間数の割りに入館者が少ない。	
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	入館者がほとんど無い朝夕の時間帯の開館を縮小する。	
改善開始時期	平成26年 4月	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
13 大規模修繕の予定			
予定事業費		円	予定時期
内容	なし		